



# Jems News

No. 157

2026年2月15日

日本環境変異原ゲノム学会

<https://www.j-ems.org>

## \* \* \* \* \* 卷頭言 \* \* \* \* \*

日本環境変異原ゲノム学会（JEMS）会長  
紙谷 浩之



紙谷 浩之 会長

「祖国があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが祖国のために何ができるかを聞いてほしい。」

私は国家主義者ではありません（と自認しています）。上の言葉はアメリカ合衆国 第35代大統領 John F. Kennedy の就任演説の一節です。彼もまた国家主義者ではないはずです。

日本環境変異原ゲノム学会（JEMS）の会長として、一言ご挨拶を申し上げます。JEMS会長に就任することが決まって（会長選挙の結果が伝えられて）からほぼ4ヶ月となりました（執筆時点）。各理事の担当、各種委員会の委員も決まりました。これから2年間、重責を担うことになります。歴代の会長のように、適切に運営できるのか、不安は太平洋よりも大きいほどです。

会員の皆様のご理解の通り、本学会が直面している問題は、会員数の減少です。人口減に伴う、日本のほとんどの学会の共通の問題ですが、どの学会でも良い解決策はなかなか見出せていないように思えます。本学会では、この問題を解決するために、歴代の会長・理事の方々が、様々な施策を講じてきました。逐一は述べませんが、効果が期待できるものもあります。私は、「地味目」の本学会の発信力を高めることも重要ではないかと思っています。

大学に所属する私にとって、優秀な学生の確保も課題の一つです。学部長を拝命していた時には広報活動が重要と考え、広報を担当する学部長補佐役を新設し、いくつかの施策を講じました。それが功を奏したのか現時点では判断できませんが、少なくとも手をこまねいているわけにはいかない状況です。

同様に、本学会の名前をいかに「売る」かが重要であると思います。そのために、倉岡先生を始めとした広報委員会委員の皆様には大車輪の活躍を期待しています。Webページにおける本学会の活動の可視化に加え、SNSなどを用いた宣伝戦略は、この情報過多時代においては必要となると思います。

一方、件の倉岡先生が大会会長として開催された第52回大会（福岡）においては、高校生ポスター発表を実施されています。このような、種を蒔く活動も重要な意味を持つ可能性があります。大会に執行部がどこまで関与するのかも含め、大会のあり方に関する議論は必要かもしれません。

さらに、公開シンポジウムは非会員の方々にJEMSを知っていただく良い機会です。本年は、岡本聰士典先生と松田俊先生のお世話により、6月13日（土）に名城大学薬学部（名古屋市）で開催されます。関東以外の地域での初めての開催となりますので、東海地域を含め中日本・西日本の方々へのアピールを是非ともお願ひいたします。

しかし、一部の会員だけが努力しても効果は薄いものになることが懸念されます。個々の会員が「自分事」として認識し行動していただくことを期待しています。Kennedy大統領の言葉の「祖国」をJEMSに置き換えてほしいと思っています。JEMSを良くするための意見を言う場が限られているとお考えの方もいらっしゃるかもしれません。「目安箱」として、webページの「お問い合わせ」があります。建設的なご意見を頂戴したいと思います。一方で、会員の皆様にそのように思っていただくなれば、JEMSが会員にとって良い学会である必要があります。学会と会員の間に双方向の良い矢印があつてこそ、と思います。私どもも努力いたします。

それでは、2年間よろしくお願ひいたします。

それにしても、かの國の大統領の振る舞いも大きく変わりました。決して他人事（ひとごと）ではないのですが。